町中学生代表 広島平和記念式典へ

8月6日に開催された広島平和記念式典へ参加するため、10名の中学生が8月5日から7日まで広島市を訪問しました。79年前の原爆の実相に触れ、被爆者体験談を聞いて、心で感じた貴重な経験を通して、平和への誓いを新たにしました。

また、8月15日の終戦の日には、活動報告会を行い、町長や教育長、保護者など、多くの方々の前で学んだことや自分の意見を発表しました。

広島での集合写真

活動報告会の様子

田尻陽羽（たじり はるわ）（那須中央中　2年）

私が1番印象に残ったのは初日の原爆資料館です。広島に行く前の研修などで、被爆者の写真や、被爆者の遺品の写真を見てきましたが、資料館にはもっとたくさんの写真があり、見ている時にすごく辛い気持ちになりました。こんな悲惨な出来事を忘れないように、私たちが次の世代に伝えていかなければいけないと思いました。

菅野泰我（かんの たいが）（那須中央中　3年）

広島派遣を通して、戦争の歴史や平和への活動を知り、自分の中にある平和への考えがさらに深まりました。見てきたことや考えたことを自分の中で深く理解し、将来は誰かに今回学んだこと、戦争の恐ろしさ、そして科学の暴走についても伝えたいです。

人見優花里（ひとみ ゆかり）（那須中央中　2年）

どれか一つを挙げて話すかと言われても選びきれないほど濃い内容の3日間でした。

今でも鮮明に覚えているのは被爆者の方の講話で、次々と語られる悲惨さ、語り部が被爆者だからこそ伝わってくるリアルさがありました。また、学生が描いたとは思えないほど迫力のある絵を見て、鳥肌が立ち、原爆の恐ろしさが身に染みる貴重な体験をすることができました。

平山芽依（ひらやま めい）（那須中央中　2年）

私が、今回の広島研修、3日間で一番印象に残っていることは、広島平和記念式典に出席し、子ども代表による「願うだけでは平和は訪れません」という平和への誓いの言葉を聞いたことです。

今でも世界では戦争が起きています。平和を願うたくさんの方々と共に、まずは私が行動を起こし、少しでも周りの人たちに平和の大切さを伝えていきたいです。

井上晴子（いのうえ はるこ）（那須中央中　2年）

広島の平和記念公園には、木の影で歩いている鳩や外国から来た方がたくさんいて、鳩も木も人も共存していると感じました。

そこで私は、平和とは全てが共存していることだと考えました。原爆資料館や被爆者の証言で戦争の悲惨さや辛さを知り、私たちは核と共存できないと思いました。今の平和を守るため、家族やさまざまな方と議論したいです。

土屋穂花（つちや ほのか）（那須中学　1年）

戦争や平和について考えることから背を向けていた私ですが、9人の先輩が話に耳を傾けてくださったおかげで、しっかり自分の考えを持てるようになりました。

この事業で学んだことは、戦争と平和について、そして人との接し方も学ぶことができました。私も話をしっかりと聞いて、人の考えや意見を受け止められるようになりたいです。

塩澤陽斗（しおざわ はると）（那須中　3年）

広島研修で原爆ドームや、原爆資料館を見学し、平和式典に参加した事、平和を願い千羽鶴を捧げた事など、これから大人になる私は、この貴重な体験を忘れず、学んだことを伝えていくことが大切だと思いました。

平和の為には、お互いを思いやり、己の考えと違った意見でも間違いだと思わず、一つの選択肢として考えるようにし、明るい未来の為に進んでいきます。

田中瑠衣（たなか るい）（那須中央中　2年）

日本は、平和で私を含め、戦争を他人事にしか考えられないのだなと思いました。

今回の経験を通して、周りの方にも戦争は他人事でも、自分が住む世界とは別の世界で起こっていることではなく、すぐ横で戦争が起きていて、たくさんの尊い命が毎日失われている事を伝えていきたいです。

鈴木陸斗（すずき りくと）（那須中央中　2年）

今回、研修に参加して、原爆ドームを見学し、私は核兵器や戦争の恐ろしさを改めて感じました。特に、印象的だったのは平和記念式典中の平和の誓いで「願うだけでは平和は叶いません」という子ども代表の言葉です。

願うだけではなく行動することが大切だと思いました。これから自分に何が出来るか考え、行動していきます。

舘脇海音（たてわき かいと）（那須中学　2年）

私は、広島派遣を通して改めて感じたことは、戦争はいけないことだということです。

原爆資料館で被害を受けた方が苦しんでいる写真を見て、私も苦しい気持ちになりました。事前研修では、敵国のアメリカを一方的に悪者にした戦時中のアニメ「桃太郎」を見ました。これを見て僕は、人の話を良く聞き、自分だけが正しいという考えをなくそうと思いました。

▼**問合せ**　学校教育課
☎72-6922